

てくてく 古道を歩こう

いちかわみち  
**市川道**

境川編



笛吹市教育委員会文化財課主催  
平成 30 年 3 月 17 日

# 本日のコース

集合・スタート: 笛吹市境川スポーツセンター体育館 駐車場



1: 市川道(石幢)



2: 明神堂



3: 観音堂の辻



4: 石橋八幡神社



5: 地藏堂塚古墳跡



6: 龍松寺



7: 前間田諏訪神社



8: 徳本碑



9: 石橋条里遺跡



10: 吉祥寺



11: 大石寺



★ゴール: 境川スポーツセンター体育館 駐車場

約 4.4km の道のりです。  
車に気をつけて  
ください。



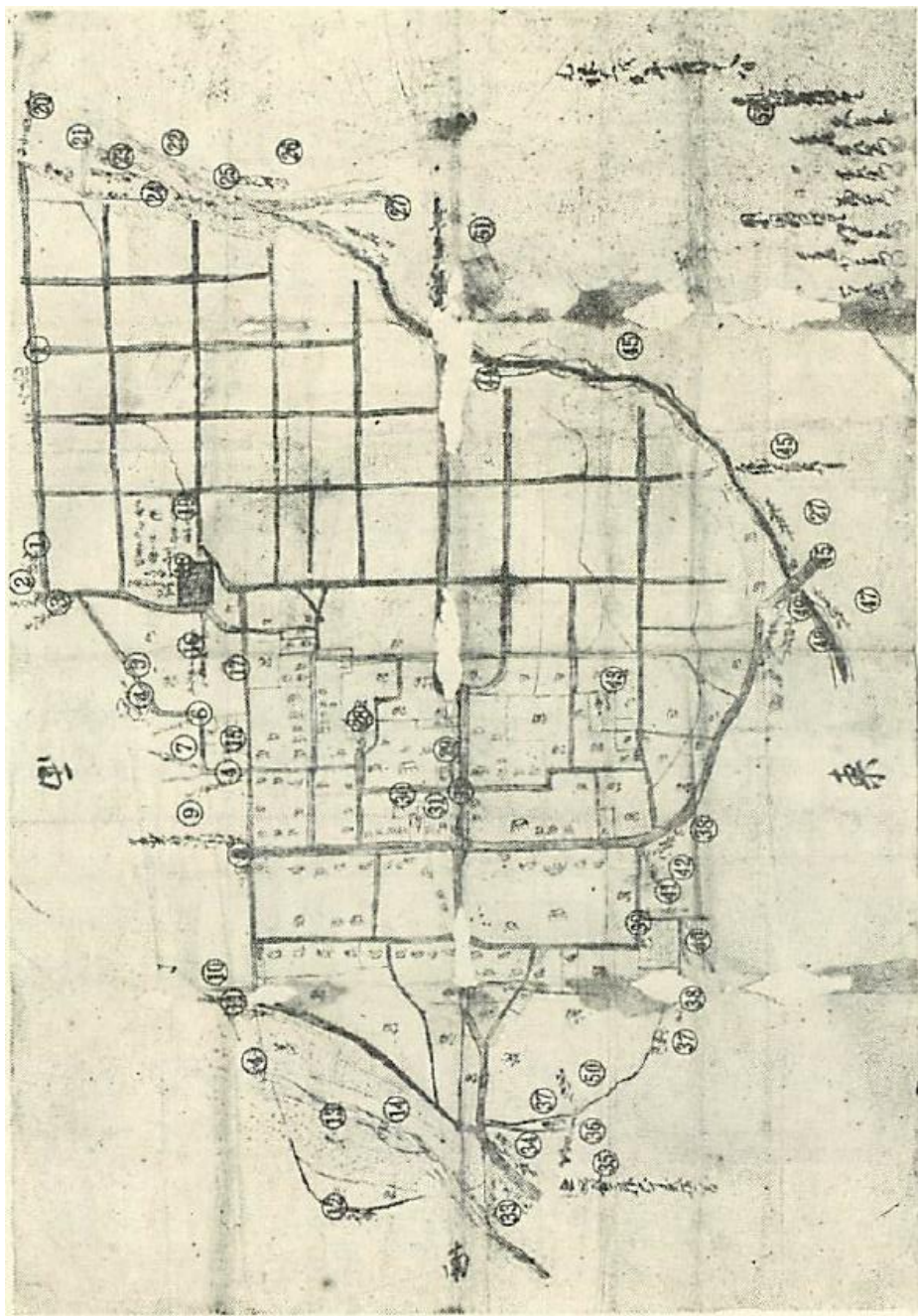
# ☆境川の市川道について

平成 28 年度から 6 回に渡って笛吹市内に残る「市川道」<sup>いちかわみち</sup>を散策してきましたが、今回の「境川編」をもって完結となります。八代から続く市川道は、境川北東部に広がる平地を東西に横切るように通過して、甲府市白井河原<sup>しらいがわら</sup>で石和方面か来るルートと合流し市川大門方面へ向かいます。境川の市川道は主に石橋<sup>いしはし</sup>・三柵<sup>みつくぬぎ</sup>・大坪<sup>おおつぼ</sup>の 3 地区を通ります。この 3 地区は中世には一つの村で、「石橋郷」<sup>いしはしごう</sup>に含まれていたと考えられています。元禄 11 年 (1698) の石橋村絵図には村を東西に貫くように太い線が描かれています。これが江戸時代の市川道であり、そのルートは現在の主要地方道白井甲州線 (笛吹ライン) に一致しています。この道はかつて塩山・市川大門線と呼ばれていました。このことはかつての市川道をもとにして、現在の道路が整備されていったことを示しています。



板額坂下の道標 (甲子供養 右いさわ、左ふちゆう)





石橋村絵図（『境川村誌』）より

# 1 市川道 (石幢)

せきどう

境川総合会館は旧境川中学校の跡地に建っています。この敷地の一面にはお地蔵さんをまつた地蔵堂があります。地蔵堂の中には中心にひときわ大きなお地蔵さんがありますが、よく見るとお地蔵さんの体は六地蔵石幢の柱(竿)を使っています。

六地蔵石幢とは石塔の一種で、柱の上に六角形のお堂をイメージして作られました。お堂の中は六角形の石柱になっていて、6つの面にそれぞれお地蔵さんが浮き彫りにされています。山梨県の国中地方を中心に見つかっており、山梨独自の石造物と言われています。造られたのは室町時代の14世紀末から16世初めの約100年間が中心です。江戸時代の中ごろになって再び造られるようになりますが、室町時代のものとは形が大きく異なっています。

地蔵堂のお地蔵さんは、室町時代に造られた六地蔵石幢の柱(竿)です。市川道沿いにはこのほかにも室町時代の六地蔵石幢が小山や大坪にもあり、市川道の古さを物語っています。

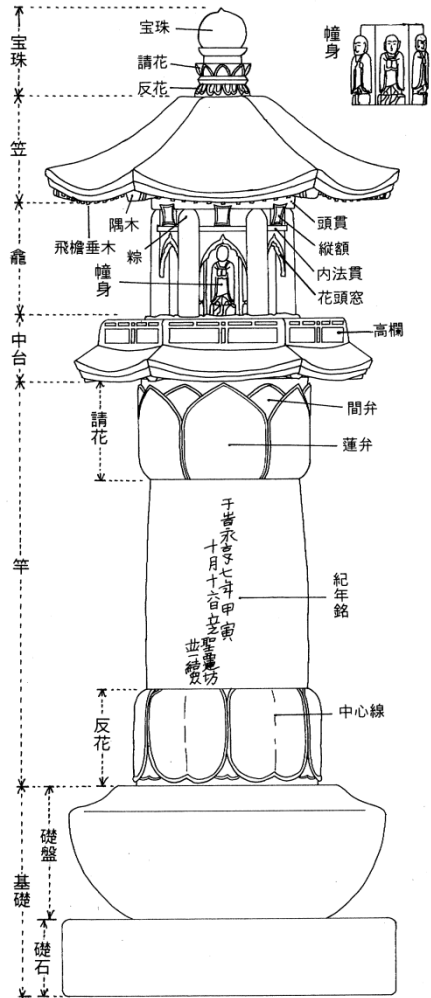


図1 完成期の六地蔵石幢の復元想定図と各部の名称  
北巨摩郡須玉町若神子 三輪神社所在 (永享7年銘)



地蔵堂（三柵）の  
お地蔵さん（石幢）



小山の石幢



大坪の石幢  
（車地蔵）



## 2 明神堂

お堂の前に元禄9年(1696)と文化4年(1807)の「南無妙法蓮華經」  
と刻まれた題目塔があります。堂内には七面大明神(七面天女)や  
日朝上人(1422-1500:室町時代の日蓮宗の僧。身延山第11世で  
中興の三師の一人と位置付けられている。)の像が祀られています。  
石橋村絵図には現在の県道よりも北側に書かれてますが、詳細は  
不明です。



明神堂前の題目塔

### 3 観音堂の辻

市川道（白井甲州線）と県道藤<sup>ふじめた</sup>堡石和線の交差点（石橋）の北側は「観音堂の辻」あるいは「東大通りの辻」と呼ばれています。藤堡石和線<sup>はんがくざか</sup>の板額坂の交差点には「右いさわ、左ふちゆう」と書かれた道標<sup>みちしるべ</sup>があり、石和と藤堡さらには芦川町<sup>おうしゆく</sup>鶯宿とを結ぶ古道でした。この道と市川道が交差する石橋は交通の要衝<sup>ようしゆく</sup>であり、その交差点（辻）が「観音堂の辻」と呼ばれたようです。現在、観音堂は残っていませんが、石橋村絵図には交差点の北側に観音堂と書かれています。

現在では道祖神をはじめ以下の石造物が残っています。

- ・「雨降山、大岳山大権現、秋葉山」<sup>あふりさん だいたけさんだいごんげん あきばさん かえい</sup> 嘉永2年（1849）
- ・「南無大師遍照金剛」<sup>なむ ぶんせい</sup> 文政3年（1820）
- ・「相川正二郎君碑」（日露戦争戦没者）



←道祖神

南無大師遍照金剛→





## 4 石橋八幡神社

石橋八幡神社は、平安時代の康平年間（1058～65）に源頼義みなもとのよりよしが奥州征伐おうしゅうせいばつ（前九年の役ぜんくねんえき）の途中造営したのが始まりと伝えられ、以後武田氏をはじめとした甲斐源氏の有力武将から帰依を受けたと言われています。神社には造営や修理にかかる棟札むなふだがたくさん残されています。

てんじ 天治2年（1125）	造立本殿・平殿	よしみつ 義光卿	よしなり 義業卿
えいじ 永治元年（1141）	八幡宮御宮造営	よしきよ 三郎義清	
げんりやく 元暦元年（1184）	修理 八幡宮庁之屋	のぶよし 武田太郎信義	
	とおみつ 次郎遠光・	よしさだ 三郎義貞・	きよたか 四郎清高・
			よしなり 与一能成
けんにん 建仁2年（1201）	修理 社壇	みつとも 太郎光朝	ながきよ 次郎長清
		みつゆき 三郎光行	
じょうきゆう 承久元年（1219）	再建 八幡宮本宮	のぶみつ 石和五郎信光	
おうえい 応永31年（1424）	社頭造営	のぶしげ 武田三郎信重	
ぶんあん 文安5年（1448）	修理 拝殿	のぶしげ 三郎信森	
かんせい 寛正6年（1465）	修理 御殿屋根	のぶまさ 源氏信昌	
おうにん 応仁2年（1468）	修理 鳥居	源氏武田五郎	
ぶんめい 文明18年（1486）	上葺修理社壇	武田五郎	
たいえい 大永6年（1526）	再立 随神殿	のぶとら 武田信虎	
		のぶとも 勝沼氏信友	
てんぶん 天文14年（1545）	再建 御殿拝殿	はるのぶ 武田晴信	

ほん でん いっけんしゃながれづくり  
本殿は一間社流造

で、棟札により天文<sup>てんもん</sup>14年（1545）に武田信玄によって再建されたことが推定されていますが、様式的にもう少し新しいとする意見もあります。



↑ 本殿



← 拝殿

随神殿（門） →



ずいじんでん  
随神殿（門）の左右には神を守る随神の像が安置されています。  
いずれも弓矢を持った武人（神）像で、門守神かどりのかみあるいは身督長かどおさとい  
われ、俗に左大臣ぼくしよめいとされています。両像には墨書銘があり、  
だいえい  
大永3年（1523）6月に仏師の村上民部法橋むらかみみんぶほつきょうと常陸じょうりくによって制作  
されたことがわかっています。



←左大臣



右大臣→



# はんがくごぜん ☆板額御前の伝説

板額御前は鎌倉時代初めの越後国(新潟県)の城資盛の伯母で弓の名人でした。建仁元年(1201)城資盛は鎌倉幕府に反乱を起こします。板額は武将の一人として弓を射て百発百中の腕前を見せましたが、最終的には藤澤清親の放った矢が脚に当たったところを生き捕られて、城氏も敗れました。その後、板額は甲斐源氏の浅利義成の妻となり一男一女を設けます。その娘は浅利義成の甥でもある石橋信繼に嫁ぎました。その関係で境川地内には板額にまつわる旧跡が残されています。



←板額塚



帯石→

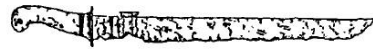
## 5 地蔵堂塚古墳 (蕨手刀)

地蔵堂塚古墳は境川町小山地内にあった古墳ですが、大正時代の初期に破壊されてしまいました。その時、石室の中から20点余りの刀が出土したそうです。そのうちの1点が今から20年ほど前に境川村教育委員会に持ち込まれ、調査の結果、古墳時代後期の蕨手刀であることがわかりました。他の刀は残念ながら現在は行方不明になっています。

蕨手刀とは、柄頭が早蕨の巻いた状態に似ていることから蕨手刀と呼ばれ、東北地方を中心に古墳時代後期から平安時代初期の遺跡で多く見つかっています。刃に対して柄がやや斜めになっている特徴があります。それまでの古墳時代の刀は、刃と柄がまっすぐな直刀でした。蕨手刀の特徴は、

やがて刀全体が湾曲する日本刀へと発展していきます。

この蕨手刀は、全長41.3cmで刃の長さが29.1cm、柄の長さが長12.2cmあります。調査の後、所有者から教育委員会に寄贈され、これ以上劣化が進まないように保存処理を行い、現在は山梨県立考古博物館に展示されています。



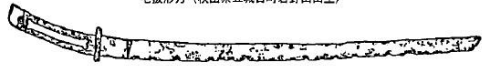
蕨手刀 (東京都武蔵野市吉祥寺出土)



毛抜形蕨手刀 (岩手県平泉町出土、伝悪路王佩刀)



毛抜形刀 (秋田県五城目町岩野山出土)



毛抜形太刀 (長野県塩尻市宗鑑出土) 0 10 20cm

図 蕨手刀から毛抜形太刀への変遷 (石井(昌)-1966より)



地蔵堂塚古墳出土  
蕨手刀

## 6 りゅうしょうじ 龍松寺

龍松寺は臨濟宗で、宝永2年（1705）に創建されました。入り口に六地藏や元禄12年（1699）に造立された三界万霊供養塔があり、境内には七観音の石像があります。観音様は人々を救うためにその場に依じて7つの姿に変えて現れます。千手観音・馬頭観音・十一面観音・聖観音・如意輪観音・准□観音（□は月に氏）・不空羅索観音の7つです。残念ながら竜松寺の七観音は、首が取れたり倒れたりして、像容も一部異なったものが混ざっています。

境内に龍のような松の古木があったために龍松寺と名付けられたそうです。



←六地藏

境内の七観音→





まえまだす わじんじゃ  
7 前間田諏訪神社

前間田諏訪神社は、もともとは別の場所にありましたが、<sup>きつねがわ</sup>狐川がたびたび<sup>はんらん</sup>氾濫したため水害除けのため今の場所に移転したそうです。  
祭神は<sup>さいじん</sup>武御名<sup>たけみな</sup>方<sup>かた</sup>命<sup>のみこと</sup>。本殿は一間社<sup>いつけんしゃ</sup>流造<sup>ながれづくり</sup>で、屋根は<sup>ひわだぶき</sup>檜皮葺ですが現在はトタンで覆われています。



←前間田諏訪神社



本殿→

とくほんのひ

## 8 徳本碑

狐川橋東の交差点には稲荷大明神が祀られていますが、由来は明らかではありません。

狐川橋西側の石橋地区共同墓地には

「南無阿弥陀仏

とくほん  
徳本」

と書かれた石碑があります。

徳本とは、江戸時代後期の浄土宗の僧侶のことです。宝暦8年

(1758)、紀伊国(和歌山県)日高郡に生まれ、27歳の時に出家し、

木喰行を行いました。各地を巡り、昼夜不断の念仏や苦行を行い、

念仏聖として知られるようになりました。文化11年(1814)、江戸

増上寺典海の要請により、江戸小石川伝通院の一行院の住持となり

ます。一行院では庶民に十念を授けるなど教化に努め、特に大奥女  
中で帰依する者が多かったといわれています。江戸近郊の農村を中心に

念仏講を組織し、その範囲は関東・北陸・近畿まで及びました。「流行  
がみ

神」と称されるほど熱狂  
的に支持され、諸大名か

らも崇敬を受けました。

徳本の念仏は、木魚と鉦  
を激しくたたくという独  
特な念仏で徳本念仏と呼

ばれました。文政元年

(1818)入寂し、墓所  
は一行院にあります。



徳本碑

## 9 石橋条里遺跡

石橋から三柵・大坪の低地には<sup>ごばん</sup>碁盤の目の状の地割が残されています。これは<sup>じょうりちわり</sup>条里地割の<sup>いこう</sup>遺構です。条里地割とは古代から中世にかけて行われた土地区画管理制度です。成立したのは奈良時代の中ごろと考えられています。

個人個人が所有する土地を役所で把握することになったとき、条里地割以前は面積と<sup>しし</sup>四至、つまり東西南北の境界の目印を記録していました。しかしそれでは記録が複雑になるので、約 109m 四方の正方形を基本単位として土地区画を造り、南北方向を「<sup>じょう</sup>条」、東西方向を「<sup>り</sup>里」、約 109m 四方の正方形の土地を「<sup>つぼ</sup>坪」として「何条何里何ノ坪」と表記したのが条里呼称法です。

条里地割の成立によって、土地の所在が明確に把握できるようになったため土地の開発が進みました。

山梨県内には各地に条里地割の遺構が残っていますが、特に一宮から御坂・八代・境川の笛吹川左岸一帯には大規模な条里地割が残っています。石橋条里遺跡は南北約 1 km、東西約 1.4 km の範囲に広がっています。



石橋条里  
遺跡



# 10 きちじょうじ 吉祥寺

りんざいしゅう かんえい  
臨濟宗。寛永18年（1641）の創立で、しょうかんのん  
を本尊とし、よこみち  
さんじゅうさんかんのんれいじょう  
三十三観音霊場の第1番札所に数えられています。

げんろく  
入り口に元禄9年（1696）造立のさんがいぼんれいとう  
三界万霊塔があります。

吉祥寺境内



境内の石仏群



# 11 大石寺

たいせきじ

真言宗。本尊は不動明王。もとは大窪の毘沙門堂という場所にあ  
りましたが、大水で流され境内にあった大石が現在の場所に流れ着  
いたので、大石寺として再興したそうです。もとは修験道の寺院で  
しが、明治以降に真言宗に改めました。4月に護摩を焚き、火渡り  
の行事を行っています。

臥竜山  
阿遮羅明王  
大石寺



火渡り



大窪の毘沙門堂

## オプションコース

みつくぬぎくまのじんじゃ

# 三 柵 熊 野 神 社

三柵地区の熊野神社は、境川を渡った坊ヶ峯<sup>ぼうがみね</sup>のふもとにあります。もともとは大窪<sup>おおくぼ</sup>にあったのですが、建久8年（1197）に大水に流されて現在地に建てられたと伝えられています。

武田家の信仰が篤く、明応5年（1496）武田信縄<sup>のぶつな？</sup>が熊野神社に与えた禁制<sup>きんせい</sup>が残っています。禁制とは神社などに立てた禁止する行いを書いた札のことを言います。

熊野神社の禁制は縦 28.5 cm、横 51.4 cmの木製の板に、墨で書かれたものです。内容は、周辺住民が神社の命令に従うこと、神社内の山林で狼藉<sup>ろうぜき</sup>を行わないように命じています。

禁制には信縄の花押<sup>かおう</sup>（サインのようなもの）が書かれていますが、信縄は若くして亡くなっているため、残されている花押が少なく、貴重なものとなっています。



三柵熊野神社→



←武田信縄の禁制



オプションコース

わかみやじんじゃ

## 若宮神社

小山地区の若宮神社は、神護景雲 2 年（768）創立で平安時代に武田義清が武運と安産祈願のために再興したと伝わっています。

神社境内には小規模な古墳が 2 基残っています。

また、付近の王子稲荷神社の境内にも横穴式石室を持つ古墳が残っていて、明治 28 年（1895）に鉄製大刀・金属具・埋葬骨などが出土しました。



←若宮神社本殿



←王子稲荷神社

オプションコース

じっそうじ

# 実相寺

大坪地区にある実相寺は臨済宗で、文安3年（1446）に創立されました。実相寺に伝わる大般若経は、建久3年（1192）に印刷されたもので、奈良の興福寺を中心として刊行された「春日本」の初期のもので、本来は600巻からなりますが現存するのは490巻で、110巻については紛失したり傷みがひどかったため14～15世紀に写経して補充したものです。元々は市川大門にあった平塩寺という寺院にあったものが移されてきました。



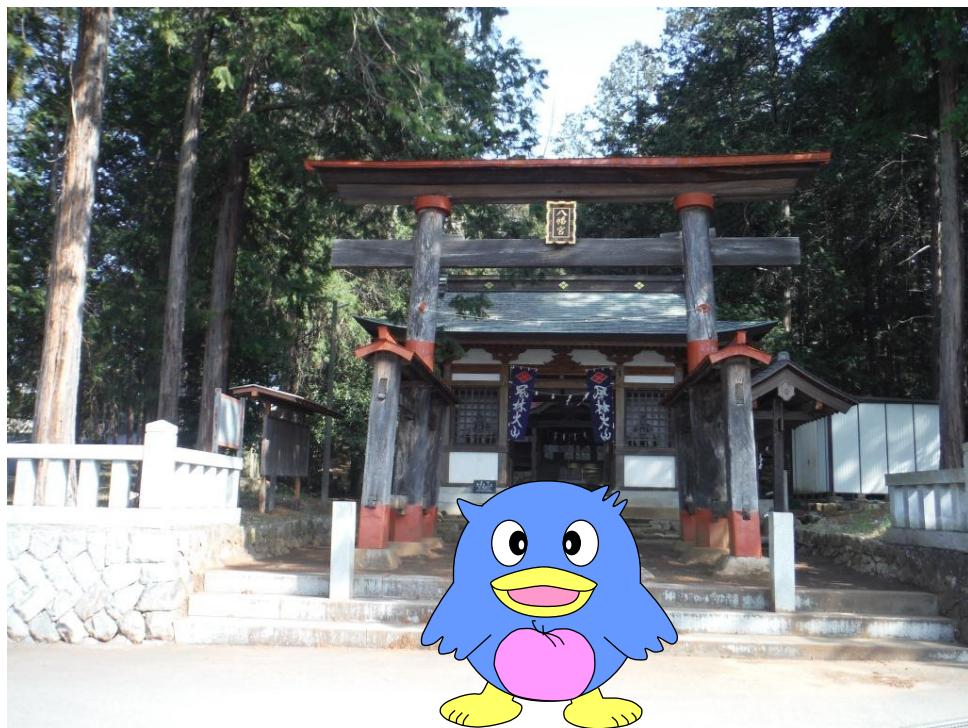
←実相寺



版本大般若経

# MEMO





てくてく 古道を歩こう  
市川道～境川編～

笛吹市教育委員会  
文化財課  
TEL 055-261-3342



